次期学習指導要領に向けて議論本格化
進む学習内容の再編・再整理

次期学習指導要領に向けて各教科等ワーキンググループ（WG）において討議が進んでおり、学習内容を削減・再整理。仮称教科や既存教科を含め、各教科で構造を作り替える大改革が進んでいる。教育課程企画特別部会は2026年夏頃までに最終取りまとめを行い、年末には中教審答申が取りまとめられる予定。次期学習指導要領は2026年度内に告示、2030年度以降に順次実施予定だ。

総合的な学習・探究の時間WG
「考えるための技法」見直し

4月15日、第6回総合的な学習・探究の時間WG（主査＝黒上晴夫・関西大学教授）では質の高い探究の実現に向けた方策を検討。

課題が自分ごととして洗練されていくことを前提に、大きく「テーマ探究」、「マイ探究（個人探究）」の用語を用いる案を検討。テーマ探究は興味・関心を「広げる」見つける」学び、マイ探究は興味・関心を「深める」学びと整理。探究の成果に係る論述・レポート・プレゼン・作品制作等の「外化」の機会を適切に設ける案について検討。複数委員が「テーマ探究／マイ探究」という言葉の〝誤読〟を懸念。「広げる／深める」の対比はミスリードではという指摘もあった。

また「節目としての探究は〝卒論化〟を招く」「学校行事を探究化として扱う際の〝条件〟を明確にする必要がある」など、多くの指摘があった。「探究の形態を二項対立で捉えるのではなく、子供の主体性と教師の指導性が往還する〝学びのデザイン〟として再整理する必要がある」という方向性は一致。それをいかに誤解なく伝えることができるかについて討議した。

「考えるための技法」の見直しについては概ね高評価。現在、総合的な学習の時間に位置付けられている「考えるための技法」を、探究のプロセスの質を高める具体的な手立ての一つとして見直しを図り「発散」「収束」の観点から分類を検討した。

情報・技術WG
「総合実習（仮称）」で学びの成果を発揮

第8回情報・技術WG（主査＝堀田龍也教授・東京学芸大学副学長）は4月16日に開催。次期学習指導要領で新設される「情報技術（仮称）」及び「中学校 情報・技術科（仮称）」のうち、後者の中核となる「総合実習（仮称）」の内容・方向性が示された。

情報を基盤とした生産技術（仮称）は、次の4つの内容で構成。▼材料と加工（仮称）▼生物育成（仮称）▼エネルギー変換（仮称）▼総合実習（仮称）

このうち総合実習（仮称）は、義務教育段階から、さまざまな技術がどのように組み合わされて機能しているのかを理解・体験する時間として位置付け、情報・技術科（仮称）で育成した力を、「つくる」活動を通して、外化する機会とする。

具体的には次の項目が案として出されている。▼技術を組み合わせる原理と仕組み（仮称）▼情報技術と生産技術とを組み合わせた問題解決（仮称）▼社会における情報技術や生産技術の吟味と活用（仮称）

「情報技術と生産技術を統合して防災システムのモデルを製作する」「情報技術と生産技術を統合して設定した課題を解決するロボット技術のモデルを製作する」などの学習活動が例示された。

課題は授業時間の確保である。他領域の問題解決時間の一部を総合実習に振り替える案などが議論された。

算数・数学WG
小学校～高校を6分野で体系化

第9回算数・数学WG（小谷元子・国立研究開発法人理化学研究所領域総括）が4月17日に開催。次期学習指導要領に向けた「とりまとめ骨子案」が初めて提示。小学校算数～高校数学Ⅰまでを共通の6分野で体系化する方向が示された。6分野は次。▼数と式 ▼図形 ▼変化と関係 ▼データと確からしさ ▼論証 ▼社会を読み解く数学（新設）

中学校では新たに「数学ガイダンス（仮称）」を導入。これにより数学の全体像や社会との関係を概観して小中接続を強化。数学を学ぶ意義の理解を図る。

高校は数学A・B・Cを統合。内容を再整理する。中学・高校で数学的推論・論証（証明）を強化する。

小学校の教科名「算数」については、数学とするも、もしくは新名称とする、現行維持の3案が提示されている。

理科WG
社会や日常生活との接続を明確化

4月13日、第8回理科WG（主査＝古村孝志・東京大学地震科学研究所所長）を開催。小学校に「理科と日常生活（仮称）」が新設される。エネルギー・環境問題など、既存の特定分野に収まらない社会課題について6学年すべてで取り扱うことを想定している。

中学校では理科の全体像・学ぶ意義・社会との接続を明確にするため「科学ガイダンス」を導入する案が出ている。

国語WG
ローマ字入力の前倒しを討議

4月10日、第8回国語WG（主査＝島田康行・筑波大学教授）を実施。話や文章の機能を踏まえた整理について討議。委員は議論のたたき台として「話や文章の機能（仮称）」を案として提示。次の5つの機能に整理した。▼事実や知識の整理と理解 ▼考えや主張の理由付けと吟味 ▼思いや経験の表出と想像 ▼協働による深化や合意 ▼伝統的な言語文化の継承と創造

「読む・書く・話す聞く」を一体で扱う方向性で、説明文を読む→解説を書く→発表する、を一つの「機能」として学びを進めやすくする方向性だ。

また、文字入力スキルが学習全体の基盤となることから、ローマ字入力の前倒しについても討議。小学校2年から扱うべきであるという意見も複数出た。今後の骨子案が注目される。

「デジタルな形態も含む教科書」
無償給与対象・二次元コード先も検定対象
指針やガイドラインを国が策定

4月10日、文部科学省は、デジタルな形態を含む教科書の発行・採択等の指針に関する検討会議（座長＝堀田龍也教授・東京学芸大学副学長）の第1回会合を開催した。これまで紙のみが認められていた教科書について、デジタルな形態を含むものも「教科書」として位置付け、使用義務や検定・採択・無償給与等の対象とする方針が決まっている。

そのためには学校教育法などの制度改正が必要だ。これについては4月8日に閣議決定され、国会で審議が始まったところだ。

この制度改正にはデジタルな形態を含む新たな教科書等を無償とすることや、音楽や動画を含む著作物等の公衆送信等の利用に係る権利制限の拡充等の措置などが含まれている。施行期日は2027年4月1日。

制度改正後は「紙媒体のみの教科書」「ハイブリッドな形態の教科書」「デジタル媒体のみの教科書」いずれかを採択することになる。また、教科書掲載の二次元コード先も教科書の一部として位置付けられるものに限定して認める。検定調査審議会においては、新たな教科書に対応した検定の仕組みの整備が進められている。新たな制度の下で教科書発行者が教科書を発行し、教育委員会・学校等が採択・使用するにあたっての判断に資する指針やガイドラインを国が策定するため、本会議では、主に次について検討する。▼教科書において紙またはデジタルの活用が期待される学習場面や教科、学年等 ▼デジタルな形態を含む新たな教科書の発行や採択・使用における留意点ほか

委員はデジタル教科書のメリットや懸念点などを指摘。特にデジタル部分も含めた教科書採択については負担やスケジュール感と学校インフラ格差についての指摘が多かった。堀田座長は「本会議は次期教育課程の中核となる議論。重要なことは選択肢を増やし学びのレパートリーを増やすこと、自己調整しやすくすること。制度改正後に起こり得る課題を先回りして議論する必要があるだろう」と述べた。

「学校給食衛生管理基準」文科省が見直し検討
最新の知見、流通等の課題背景に

文部科学省は策定から17年ぶりとなる「学校給食衛生管理基準」（以下、基準）の見直しに向けた有識者会議を設置し、第1回会合を3月25日に開催した。

働き方改革の推進による物流の輸送力不足など給食運営を取り巻く社会環境が大きく変容した現状と、この間に確認された新たな食品衛生管理に関する科学的知見を踏まえて検討。期間は2028年3月31日まで。

予定される見直しの項目は、①数回改正されている「大量調理施設衛生管理マニュアル」と基準との記述・内容の整理・統合、②食品添加物の規定等について最新の科学的根拠等に基づいた見直し、③配送等の働き方改革と食品衛生の確保との両立、食品ロス、地産地消等の近年のニーズや環境変化をどのように踏まえるか。

同基準は学校給食の適切な衛生管理を図る上で必要な事項について維持されることが望ましい基準として、学校給食法に基づき策定。厚生労働省により1997年に策定された「大量調理施設衛生管理マニュアル」や食品衛生法等を参照にされたが、すでに同マニュアル等は数度の改正を経て、現基準との差異や規定がないこと等が見直しの背景にある。（関連8面）

寄稿　毛利 靖・茨城大学教育学部 副学部長
次世代型校務DXは「引き算」の英断を
デジタル時代とは思えないアナログな手間をいつまで続けるのか

現在、多くの自治体がGIGA第2期の更新に合わせ、校務システムの刷新を急いでいる。最新のシステムを導入し、ダッシュボードで教育データを可視化する――それは確かに素晴らしい一歩に見える。

しかし、これまで、担任から校長まで現場を歩んできた者として、私は今のDX改革に「最も大切な視点」が欠けているのではないかと危惧している。

それは、システムという「器」の話ではなく、指導要録や通知表といった「中身（入力項目）」そのものの大胆な見直しとデータ連携である。

■「多機能」という罠から抜け出す

次世代型校務支援ソフトの仕様検討の場では、教員から「あれもしたい」「これも連携してほしい」という要望が次々と上がるであろう。

しかし、ここで自問自答すべきである。

「私たちは何のために、広域で校務支援ソフトを導入するのか」

真に目指すべき要件は、派手な機能ではない。

例えば次のようなものだ。▼異動先でも同じ感覚で迷わず操作できる「安心感」▼一度入力したデータを二度打たせない「簡便さ」▼そもそもいつでも閲覧できる。これだけで、これまでの「通知表作成」という膨大な業務は軽減される。

さらに都道府県でフォーマットが統一されれば、入試の調査書作成も、進学時の要録の写しもすべて電子化できる。「印刷して、確認して、職印を押す」という、デジタル時代とは思えないアナログな手間を、私たちはいつまで続けるのか。

■「縦割り」を壊す千載一遇のチャンス

これまで内容の見直しが進まなかった最大の理由は、指導要録の様式が「都道府県単位」で定められている一方、システム更新は「市町村単位」で行われるというねじれにあった。しかし今、都道府県単位でのシステム導入が進むなか「システムと様式を同時に見直す」千載一遇のチャンスが訪れている。この機会を逃せば、次のチャンスはしばらく訪れない。「システムを入れる部署」と「要録の様式を決める部署」が違う。そんな組織の論理を優先していては、真の教育改革など不可能である。今こそ、都道府県教育委員会の責任あるリーダーが主導し、現場の教員の笑顔のために、組織の壁を越えた「英断」を下すべき時であると考える。

……

執筆者プロフィール
茨城大学教育学部 副学部長 附属学校園統括長。茨城大学教育学部教授。全国ICT教育首長協議会特別顧問。【協力＝一般社団法人AIイノベーション&次世代教育ネットワーク（AISEN）寄稿初出＝同社Webサイト】

AI時代の主体的な学びへの転換
新連載　教員が生成AIで教材開発　～福岡県苅田町立新津中学校の取組から～

多様化に対応した学校教育では、子供たちが学習の方法や内容を自己選択できるように支援することが重要である。

2023年度から文科省リーディングDXスクールに指定されている福岡県苅田町立新津中学校では、個別最適な学びを推進するなか、クラウドや生成AIの利活用に取り組んでいる。

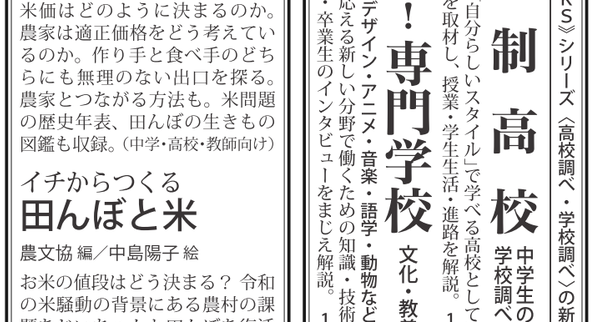
1年理科「音の性質」の授業では、音の大きさ、高さと音の波形の関係を探るために、教員が生成AIを活用して、音声入力オシロスコープやトーンジェネレーター等の教材アプリを開発した。

それらのアプリと複数の教材を組み合わせて、生徒が教材や学習方法を自己選択できるようにし、生徒の主体的な学習を支援した。その他にも、実際の楽器を持参して、体験的に学習する生徒もいた。さらに、生成AIのプロンプトを自動化する機能（Gem）も活用して、学習を効率的に進めるように支援した。

数学では、空間図形の体積を求めるアニメーションを、教員が生成AIを用いて作成した。また、文字と式においては、生成AIでヒントカードを段階的に複数作成して、生徒が選択できるようにした。

これらの生成AIによって作成された教材では、授業者である教員の意図が込められた教材となり、生徒が活用する上でもより使いやすい教材となる。また、AIノートブックを用いて、単元の重要事項を要約して、生徒に配布するなど、学習内容の深化を図るようにした。

このように、教員が教材研究や教材開発で生成AIを積極的に利活用することが授業改善の手法として広がってきている。


理科の授業では生成 AI で作成したオシロスコープアプリを使った

中村学園大学 教育学部 山本朋弘 教授

教育家庭新聞
2026年（令和8年）
4月27日
月曜日
第2282号
卯月・陰月・建巳月
子ども読書の日（4/23）
哲学の日（4/27）
昭和の日（4/29）
第4月曜日発行

教育マルチメディア

教育家庭新聞社
発行所＝〒111-0053東京都台東区浅草橋3-1-8
TEL：03（3864）8241㈹
FAX：03（3864）8245
郵便振替口座　1309−53693
購読申込み　☎03（3864）8241 Eメール kks@kknews.co.jp
ホームページ　https://www.kknews.co.jp/
創刊 昭和36年7月　©教育家庭新聞社　1部 520円

紙面案内

学びを支える環境とともに学びの内容・方法が変わる

次期学習指導要領の議論が大詰めだ。社会や教育環境の変革に伴い教育内容の大改革が進もうとしている。すべての地域・学校で充実した学びを実現するための議論がふくらんでいるが、改めて精選しわかりやすい内容として示されることを期待している

2　面　教育DX自治体表彰で17自治体が表彰
3　面　全国情報教育コンテストで探究の成果を披露
4～7・14面　EDIX東京特集
8　面　学校給食・学校保健
9～11面　春の学校図書館特集
12　面　学校施設・設備
13　面　教育・教育環境整備ニュース

■X（旧Twitter）@kyoikukatei
■紙面問合せ ✉kks@kknews.co.jp
■購読申込みはこちら→

「教育家庭新聞 教育マルチメディア」購読申し込み書

「教育家庭新聞　教育マルチメディア」は毎月第4週に発行します。メール便でお届けします。電話・FAX、またはHPからもお申し込みいただけます。
購読者には、新聞紙に加えて、読者専用Webページにアクセスできるid とパスワードをお届けします。
1.電話 03-3864-8241（弊社販売部）　2.FAX 03-3864-8245
3.ホームページアドレス https://www.kknews.co.jp/　（1部 520円）

お申し込み書（年間12回6,240円）

お名前	
ご職業	
ご住所	〔自宅・通勤先〕（どちらかに○を）　（〒　－　）
連絡先	電話　（　） FAX　（　）

お支払方法
ご連絡を頂き次第、郵便振替及び銀行振込の用紙をお送りします。どちらかでお支払いください。

合同出版
〈最新刊〉
担任の先生に伝わる！ 大場美鈴［著］ ◎楽々式サポートブック付き！
子どもがラクになる 合理的配慮サポートブック
合理的配慮の伝え方や学校との連携のコツを具体的に解説した「無一」のガイドブック！。家庭と学校がサポートし合える一冊です。●1870円
〈好評発売中〉
学校で性暴力が起こったら 田口奈緒［編著］
チームで立ち向かう 緊急対応・再発防止
性暴力は初期対応が何よりも大切です。すぐに実践すべき対応から子供へのケア、予防までを丁寧に解説しました。●2200円
〒184-0001東京都小金井市関野町1-6-10
https://www.godo-shuppan.co.jp/
TEL042-401-2932　FAX042-401-2931
ご注文は書店または☎048-291-9412

累計10万部！
改訂版 学びの技
14歳からの探究・論文・プレゼンテーション
中学・高校生の探究学習や大学生の初年次教育に最適のテキスト。研究テーマの決め方から情報収集の方法、論文の書き方、プレゼンテーションの効果的な工夫までを網羅している。好評書の大幅改訂版。
登本洋子・伊藤史織・後藤芳文 著　定価1980円
玉川大学出版部
〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1
TEL 042-739-8935　FAX 042-739-8940
www.tamagawa-up.jp　〈価格税込〉

「大丈夫？」と聞かれると、つい「大丈夫！」と答えちゃう
中高生のための家庭医学の本
10代のからだとこころの不安解消BOOK
重版出来しました
田上幸治 編著
大庭真俊／庄 紀子／長瀬寛美／林 千裕／森 里美 著
A5判・154頁
定価3,300円（税込）
丸善出版
東京都千代田区神田神保町2-17
https://www.maruzen-publishing.co.jp/

鉢の木へ、ようこそ！ 子どもの生きる力を開花させる
大竹稽編著他 共著
「逆境を乗り越えるヒントがここにある」――能の演目である『鉢の木』。これをテーマに子育てや生き方などを禅寺の和尚たちと編者が語り合う。
子育て支援
平塚儒子 監修・編
子どもを「社会の子」として育んでいくための子育て支援を考える。
定価2200円
学校事故 知っておきたい！
増補版 養護教諭の対応と法的責任
「武道」の指導教員、養護教諭が知っておかなければならないこと、部活動中の事故と法的責任。危機対応マニュアル作成の留意点を増補。
入澤充 著
定価2200円
時潮社
〒175-0081 東京都板橋区新河岸1-18-3
電話03-6906-8591　FAX03-6906-8592
www.jichosha.jp/（税込）

全教科の学力アップに直結 中学受験への土台作りに
頭のいい子がやっている すごいグラフの読み方
渡辺美智子 監修
立正大学データサイエンス学部教授
バウンド 著
A5判 128頁 定価1760円（税込）
作り手の意図や条件のズレを見抜き、数字・ニュース・データ・視覚情報を読む力を鍛えていきます。自分の頭で考える習慣が身につくだけでなく、授業の理解が深まり、学力アップにも結びつく1冊です。
カンゼン ☎03-5295-7723
https://www.kanzen.jp/

中高生のための人生論ノート
小川仁志 著
三木清の『人生論ノート』をオマージュ。異色の哲学者が自身を振り返りながら、「中高生に一番伝えたいこと」を語る。1760円
学校で！SNSで！失敗しない！
中高生のための著作権入門
刊行後即重版！
関口慶大／齋藤理央／小山紘一／萱野 唯 編著
知らないうちに著作権を侵害しないよう／させないために、弁護士が88の疑問に答える。学生、保護者、先生必携。2200円
ミネルヴァ書房
京都市山科区日ノ岡堤谷町1☎075-581-0296
税込／ https://www.minervashobo.co.jp/

《なるにはBOOKS》シリーズ〈高校調べ・学校調べ〉の新刊
通信制高校
中学生のキミと学校調べ
木村由香里著
木村由香里著 「自分らしいスタイル」で学べる高校として注目される「通信制高校」を取材し、授業・学生生活・進路を解説。1980円
知りたい！専門学校
文化・教養分野
木村由香里著
《デザイン・アニメ・音楽・語学・動物など》現代の多様なニーズに応える新しい分野で働くための知識・技術が学べる専門学校を学生・卒業生のインタビューをまじえ解説。1980円
ぺりかん社　税込価格
113-0033 東京都文京区本郷1−28−36
☎03-3814-8515 http://www.perikansha.co.jp/

いま知りたいお米と農家の話
農文協 編 ●1870円
お米はなぜ足りなくなったのか。米価はどのように決まるのか。農家は適正価格をどう考えているのか。作り手と食べ手のどちらにも無理のない出口を探る。農家とつながる方法も。米問題の歴史年表、田んぼの生きもの図鑑も収録。（中学・高校・教師向け）
イチからつくる 田んぼと米
農文協 編／中島陽子 絵
お米の値段はどう決まる？ 令和の米騒動の背景にある農村の課題をじいちゃんと田んぼを復活させて米をつくってみることで考える。（小学中級～）　●2750円
農文協 〒335-0022埼玉県戸田市上戸田2-2-2
☎048-233-9351 FAX048-299-2812
https://shop.ruralnet.or.jp/（価格税込）